

第21回東日本運転 交流会開催！

第21回東日本運転交流会が10月25日～26日の日程で新潟運転協の準備のもと、新潟・「メイウ・サンピア」にて開催されました。昨年、高崎での交流会から始まった検修の全面的外注化施策に対する反対運動や、国交者が出した「動力車操縦者運転免許の取消し」問題など今回の交流会開催では各地方の実情を出し合い交流する場となりました。



交流会は54名の参加にて、東日本運転協・後藤事務長の開会挨拶を受けた後、座長に新潟運転協・田辺事務長を推薦し、参加者の拍手で承認を行い、以後の進行をお願いしました。

来賓として、新潟地方本部・関川委員長が出席され、挨拶を受けました。要旨は日本経済の現状と問題点に触れ、ありとあらゆるところで経費の削減が叫ばれ、非正規雇用が蔓延してきているとし、これが適法なのかどうか検証していかなければならない。働き方としては正社員が当たり前の世の中にしていかなければと強く訴えました。また、プレミアムが付いている新潟の銘酒も堪能していただいていたと結びました。

続いて、準備していただいた新潟運転協より代表して石津議長が挨拶に立ち、この間新潟運転協として取組んできた活動（分会の活性化・安全・仕事総点検運動）を報告し、挨拶としました。



次に交流会主催者代表として東日本運転協・木立議長が挨拶に立ち、過日開催された第22回東日本運転協議会定期委員会の報告と、今問題になっている民事再生法下にある日航・乗務員に対する希望退職という名の退職強要問題について触れ、国鉄も同じであったが赤字の責任は労働者にあるわけでないことや会社側の責任についても触れず、真っ先に労働者の首を切ることがいかに日航の再生に

逆行しているのかについて発言しました。

次に、東日本本部から参加いただいた武笠調査部長から、情勢の報告をいただきました。要旨として JR不採用問題の現状 組織の強化・拡大について業務にまつわる問題の発言がありました。



その後、運転協議会全国連絡会より清水会長に参加していただき挨拶を受けました。要旨は、昨年取組んだアンケート調査が大会で取り上げられた 運転における全国の統一した要求の前進に向けて（九州では外注化した業務が一部直営に戻している） 車両の安全性について（規格が必要ではないのか）と挨拶を受けました。

来賓挨拶の後、本日の講演に移りました。今年は昨年新たに専従となった矢部法対部長を招き、今年のエリア大会で問題となった総合労働協約締結問題と検修の全面的な外注化施策の現状と題して1時間の予定で講演していただきました。



意見・質問では、総合労働協約締結に関しては是非職場討議資料がほしい。昇進差別の実態やエルダー社員への差別の問題など出され、答弁として一括和解以後も協約なしでやってきたが、他労組も制度要求を出している。和解の主旨をどのように労働協約に盛り込んでいくかが問われてくると結びました。

その後、分散会に移り、それぞれの場所に移動しました。今年は全5つの分散会を計画し、その中で議論をしていただくとして、全体会議はいったん休憩に入りました。

さて、今年の夕食交流会は後藤事務長の司会のもと進められました。夕食交流会では、各地方ごとに参加者一人ひとりのあいさつもあり、あっという間に予定時間が過ぎ、その後各分散会の部屋で交流の続きが行われ、夜遅くまで血気盛んに賑わった部屋もありました。



二日目は、各地方からの報告と分散会ごとの報告発表がありました。

各地方からは、地方における現状報告とこれまで取組んできた運動について触れられた発言がありました。

分散会報告では、検修外注化問題や運転にまつわる問題等が出されました。



また、検修の外注化問題で偽装請負対策を会社側がとり始めているがまだまだ完全ではない実態、要求で他労組とも共同行動を模索しているとの発言もありました。運転では、指令の質の問題で誤った指示が出されている中、運転士としての対応方についての発言もありました。

交流会全体のまとめとして、木立議長から各地方で総意・工夫した闘いに敬意を表すと共に、少数派である国労としての運動に何が求められているか考え、要求の多数派を目指して今後もお互いに奮闘しようとして結びました。

最後に木立議長の音頭にて全員での団結ガンバロー三唱で締めくくりました。

参加された仲間の皆さん大変お疲れ様でした。来年は水戸での開催予定を確認して、散会となりました。

新潟地本関川委員長、そして石津議長を始めとした新潟運転協議会の皆さん大変お世話になりました、今後も力を合わせて頑張りましょう!

国労東日本運転協議会

